

第60回

MESH 環境デザインセミナー

2007年 10月 9日(火) 18:30～20:30 (17:00 受付開始)

国際デザインセンター

6F プレゼンテーションルーム

参加費 1,000 円

M-E-S-H

<http://m-e-s-h.org/>

第一部 「日本人の心性：異常と正常」

講師 舟橋 利彦

精神科医, 医学博士



1955年 愛知県生まれ。
1986年 藤田保健衛生大学医学部大学院修了。
1984年 大学院在学中に[仁大クリニック]開設。
1988年 豊田市に[仁大病院]開設。
1995年 [仁大駅前クリニック]開設。

医療法人[明心会]理事長。
(社) 日本精神神経学会評議員。
(社) 日本精神病院協会学術研究委員。
(社) 愛知県精神病院協会会長。
藤田保健衛生大学客員教授。
「超脳力」(実業之日本社)ほか著書多数。

主催
MESH (環境建築協会・中部)
後援
JCD (社団法人日本環境設計協会中部支部)
JID (社団法人インテリアデザイナー協会中部事業部)
SDA (社団法人日本新デザイン協会中部地区)
CIP (有償責任者協会インテリアプランナー協会)
国際デザインセンター
協力
名古屋大学
名古屋工業大学
愛知淑徳大学
椋山女子学園大学
名古屋デザイナー学院
トライデントデザイン専門学校
株式会社スペース
松下電工株式会社
コイズミ照明株式会社

空間体験	心理状態	脳内物質
空間 A	沈静感	セロトニン
空間 B	幸福感	ドーパミン
空間 C		

第二部 パネルディスカッション 「心と空間の関係について」

コーディネーター

パネリスト



堀越哲美
Tetsumi Horikoshi
都市環境デザイナー
名古屋工業大学大学院教授



加藤和雄
Kazuo Kato
建築家・デザイナー
状況空間研究所主宰/MESH会長



太田忍
Shinobu Ota
スペースデザイナー
アケボノアードワークス所属



鳥居佳則
Yoshinori Torii
インテリアデザイナー
鳥居デザイン事務所主宰



セミナー会場

■テーマ 日本人の心性(異常と正常) 講師:舟橋利彦 (精神科医 医学博士)

-精神の異常の原因は人間関係にある。-

現在は基本的には幸せな時代。

縄文時代までは食べる事が大変で日常のほとんどの時間を使い食料確保をしていた。

弥生時代、稲作を始め食料の心配が無くなると時間の余裕ができ、室町時代には現在と同じ一日三食の食習慣になり、余剰の人口により文化が大きく発展する事となる。

当然、現代における人間関係はさらに複雑である。

欧米人はキリスト教的な神と人との関係、神との契約を基本として社会を形成しているのに対して、日本人の社会は夫婦関係が基本であり、夫は無意識に妻に依存する傾向がある。

夫婦仲が良ければ子供は悪くならない。

最近の女性は以前は男がした様な自己主張をするようになり、いままでの様な男の役割、女の役割が変化して来ている。

相手に対する思いやりが無くなって来ており、親と子供の関係、近所付き合いも希薄になり、大人の知恵が欠落している。戦前まではあった、縦の関係性が無くなり、横だけの繋がりが日本社会での人間関係の主体となっているのが問題である。



舟橋利彦氏

社会での人間関係

10-20代はコンピュータの影響が大きく世代間の価値観にずれが生じている。30-40代の鬱病が多い。

解決方法としては、

「部下を褒める事を前提に叱る。」「思い切って仕事を任せる」妥協と協調、信頼と開き直りが大切。

人間関係が上手にとれない人は、本来の性格の問題、学校、家庭教育の結果、親子関係または、精神疾患の可能性がある。

外因性精神病の心因反応には、空間性不安障害がありその中には、広場恐怖、閉所恐怖があるがその根本の原因は夫婦関係が影響している。

内因性精神病にはセロトニン神経系から来る気分障害、5HTとNAの総合的な欠乏状態から鬱病となる。鬱病は日本で500万人

ディスカッション

Q.1 日本社会は夫婦関係が基本で成り立っているというお話があったが、社会をデザインし家庭をデザインする為に必要なことは？また、心に対してどのようにアプローチすれば良いか？

A.1 身体的変化を考える必要がある。身体から精神に作用する様なデザインが求められている。

Q2. クライアントとデザイナーの関わりについては？

A2. デザイナーはクライアントの本来の力を引き出しソフトを高めるデザインをするべき。